

事務事業	14013	糟屋地区学校結核対策委員会運営事業	担当課 課長	学校教育課 太田 成洋	担当係 担当者	学校教育係 寺垣 健太
計後 画期 体計 系画	施策	06 子どもが生き活きと学び、生きる力を育むまちをつくる	予算 科目	会計	1	一般会計
	取り組み方針	190 学力向上と豊かな心を育てる		款	10	教育費
法令根拠条例等			個別計画			
実施期間	□28年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返		H14 年度より開始		□期間限定(複数年) 年度～ 年度	

【事業の目的・内容】(改行は、「Alt」+「Enter」で行ってください) 糟屋地区の全小中学校の児童生徒の結核に関する問診表のうち、精密検査の検討の必要があるものについて、精密検査の受診の必要性を判断する。委員の構成は医師、保健所長、学校長、養護教諭である。 平成21年度からは学校腎臓検診委員会も併せて行われるようになり、尿検査の結果、精密検査が必要な児童生徒についての判断も行われるようになってきている。	<input type="checkbox"/> 2次評価会議に提出します (左にチェックを入れる)
【業務内容(町職員の仕事内容)】(改行は、「Alt」+「Enter」で行ってください) 各学校から提出された報告書等を結核対策委員会、学校腎臓検診委員会事務局に提出。要検討者名簿により、委員会の判断を受ける。委員会の判断結果を各学校に報告し、必要な措置を行うよう学校に指示。精密検査受診者の受診料及び結核対策委員会事務局への負担金支払。	主な 事業 費の 内訳
	糟屋地区結核対策費負担金 25 千円
	千円
	千円
	千円
	千円

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

事務 事業 の 目 的	① 手段(主な活動) 28年度に行った主な活動(※簡条書きで記入) 結核対策委員会と同時に学校腎臓検診委員会に出席し、そこで出された判断結果を学校に通知	④ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	指標数値							
	② 対象(誰、何を対象にしているのか) 児童生徒	⇒	名称	単位	27年度	28年度	29年度			
		⇒	ア 委員会開催数	回	2	2	2 (見込)			
		⇒	イ 受診者数	人	0	0	0 (見込)			
	③ 意図(この事業で、対象をどのような状態にしたいのか) 小中学生の結核及び腎臓の精密検査の必要の有無を判断し、結核及び腎臓病の罹患者の早期発見早期治療を図る。	⇒	ウ				(見込)			
		⇒	⑤ 対象指標(対象の大きさを表す指標)	名称				単位	27年度	28年度
⇒		ア 児童生徒数	人	4,308	4,412	4,528 (見込)				
		イ				(見込)				
		ウ				(見込)				
		⑥ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	名称				単位	27年度	28年度	29年度
		ア 結核精密検査受診率	%	目標 0.0	0.0	0.0				
				実績 0.0	0.0	/				
		イ 結核精密検査受診率	人	目標 0	0	0				
				実績 0	0	/				
		ウ		目標		/				
				実績		/				
		エ		目標		/				
				実績		/				
		オ		目標		/				
				実績		/				

(2) 総事業費の推移

事 業 費	財源内訳(千円)		27年度 (決算値)	28年度 (当初予算)	28年度 (決算値)	29年度 (当初予算)	30年度 (計画)	31年度 (計画)	
	経 費	国・県支出金、地方債等							
		受益者負担等							
		一般財源	25	45	25	31			
		合計(A)	25	45	25	31	0	0	
		(内臨時・嘱託職員人件費)							
		正職員人件費[按分](B)	584	1,704	855	380			
	トータルコスト(A)+(B)	609	1,749	880	411	0	0		

事務事業評価表(事業実施年度:平成28年度)

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を開始したきっかけは何ですか?いつ頃どんな経緯で開始されましたか?	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化していますか?	③ 事務事業に対して関係者からどんな意見や要望が寄せられていますか?(誰からの意見か明記)
平成15年度、法改正によりツベルクリン反応検査、BCG接種方式から問診票によるスクリーニング方式に改正され、その経緯で委員会が発足。	平成21年度から学校腎臓検診委員会を併せて実施するようになった。	医師会による統一的判断により対象者が絞り込まれるので、精密検査受診勧奨が行いやすくてよい。

(4) 昨年度の評価結果の取り組み状況調べ

昨年度の事務事業評価結果		28年度の取り組み状況と今後の方針	
事業の方向性	平成28年度の取り組み概要及び期待される効果	実施状況	実施できなかった理由と今後の方針
<input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> 目的の見直し <input type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 事務事業終了 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持・継続		<input type="checkbox"/> 記述どおり実施できた (コメント必要ありません) <input type="checkbox"/> 一部実施できた(理由→) <input type="checkbox"/> 実施できなかった(理由→)	

2 評価(SEE)及び全体総括の部 * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

(1) 評価

	評価の理由
目的妥当性評価 ① 上位施策への貢献度は大きいですか? ※総合計画を参照してください <input checked="" type="checkbox"/> 貢献度大きい(理由→) <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう(理由→) <input type="checkbox"/> 貢献度小さい(理由→)	学校保健法に基づくものであり、政策体系に結びつく。
② 税金を使って達成する目的(対象と意図)ですか? (事業の目的は、総合計画の町の役割や基本方針に合っていますか?) <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である(理由→) <input type="checkbox"/> 妥当性が低い(理由→)	感染症の予防は学校保健法に基づき、学校でも適切な措置を行わなければならない。
有効性評価 ③ 成果がこれ以上向上する余地(可能性)はありますか? <input type="checkbox"/> 成果向上余地がある(理由→) <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上余地がない(理由→)	小中学生の結核及び腎臓の精密検査の必要の有無を判断し、受診させることができています。また、本事業は成果を向上させる事業ではない。
④ 廃止・休止した場合、成果への影響はありますか? <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(理由→) <input type="checkbox"/> 影響なし(理由→)	学校現場だけでは精密検査を受診するかどうかの必要性を適切に判断することが難しい。
効率性評価 ⑤ 現状の成果を落とさずにコスト(予算+事務従事時間)を削減する新たな方法はありますか?(広域連携や民間委託等の導入など) <input type="checkbox"/> ある(具体的な内容→) <input checked="" type="checkbox"/> ない(理由→)	事業費は、委員の報酬及び会議開催通知郵送料、精密検査受診料を負担金で支出しており、これ以上削減の余地はない。

(2) 28年度を振り返って(全体総括・反省点)

平成21年度から結核対策委員会に付随して腎臓検診委員会も実施され、腎臓病の早期発見・早期治療にも取り組んでいる。また、同時に行われているため、それぞれの委員会が別個に開催されるより費用負担がかなり軽減されている。
--

3 今後の方向性(29年度以降の計画と30年度予算への反映)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(複数選択可)	(2) 平成29年度以降に取り組む内容と期待される効果
<input type="checkbox"/> 廃止・休止(理由→) <input type="checkbox"/> 目的の見直し(内容→) <input type="checkbox"/> 有効性改善(成果向上)内容→ <input type="checkbox"/> 効率性改善(コスト削減)内容→ <input type="checkbox"/> 事業終了 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持・継続	